

2014年3月期 決算説明会

2014年5月12日
株式会社電通国際情報サービス

AGENDA

第1部 2014年3月期決算概況、および 2015年3月期業績予想について

取締役 専務執行役員
上原 伸夫

第2部 中期経営計画 ISID Open Innovation 2016『価値協創』 Progress to the Future

代表取締役社長
釜井 節生

I. 2014年3月期決算概況、 および2015年3月期業績予想

取締役 専務執行役員
上原 伸夫

- 3 -

(1)2014年3月期 連結業績サマリ

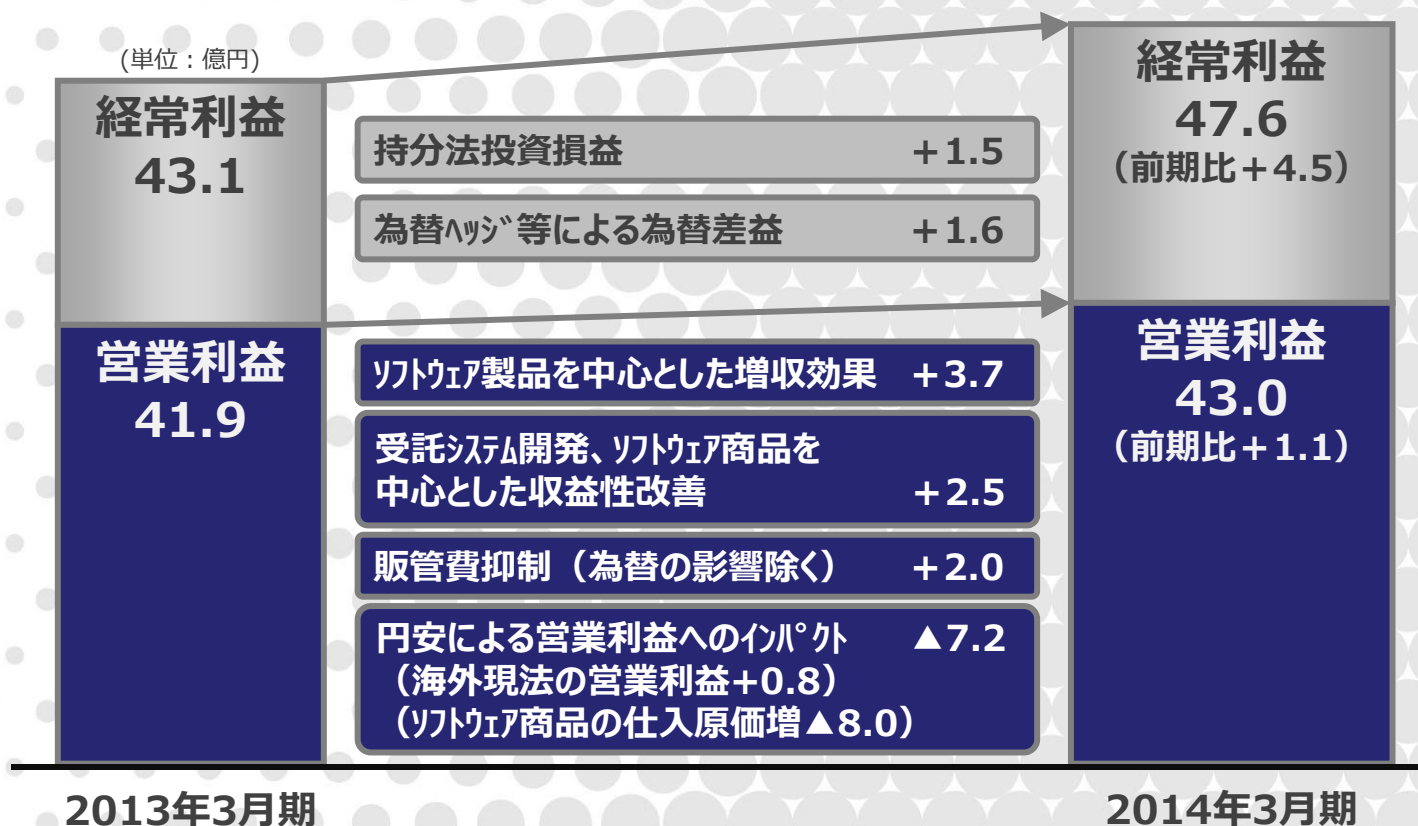
	2014年 3月期	前期比		予想比 (2014/2/5発表)		【参考】期初予想比 (2013/5/10発表)	
		前期実績	増減額 (増減率)	予想値	増減額 (増減率)	予想値	増減額 (増減率)
売上高	73,970	72,764	+1,206 (+1.7%)	74,000	▲30 (▲0.0%)	75,500	▲1,530 (▲2.0%)
売上総利益	22,571	22,492	+79 (+0.4%)	-	-	-	-
売上総利益率	30.5%	30.9%	▲0.4p	-	-	-	-
販管費及び一般 管理費	18,261	18,300	▲39 (▲0.2%)	-	-	-	-
営業利益	4,309	4,192	+117 (+2.8%)	3,800	+509 (+13.4%)	4,460	▲151 (▲3.4%)
営業利益率	5.8%	5.8%	+0.0p	5.1%	+0.7p	5.9%	▲0.1p
経常利益	4,766	4,311	+455 (+10.6%)	4,200	+566 (+13.5%)	4,700	+66 (+1.4%)
当期純利益	2,871	2,622	+249 (+9.5%)	2,600	+271 (+10.4%)	2,870	+1 (+0.0%)

営業利益、経常利益、当期純利益とも2/5予想を上回り、前期比増収増益を達成。
当期純利益は過去最高益。

- 4 -

(2)営業利益・経常利益【前期比】

(単位：億円)



(3)事業セグメント別 連結売上高

(単位：百万円)

	2014年 3月期	前期比			期初予想比(2013/5/10発表)		
		前期実績	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
金融ソリューション	22,262	20,357	+1,905	+9.4%	21,879	+383	+1.8%
エンタープライズソリューション	32,995	33,509	▲514	▲1.5%	36,521	▲3,526	▲9.7%
ビジネス系	12,736	13,117	▲381	▲2.9%	14,938	▲2,202	▲14.7%
エンジニアリング系	20,259	20,392	▲133	▲0.7%	21,582	▲1,323	▲6.1%
コミュニケーションIT	18,712	18,897	▲185	▲1.0%	17,098	+1,614	+9.4%
合計	73,970	72,764	+1,206	+1.7%	75,500	▲1,530	▲2.0%

【前期比】

金融 かんバンク/ネット系金融機関向けSI、「BANK・R」「LAMP」堅調
 ビジネス系 「STRAVIS」は拡大したものの、基幹システム分野が伸び悩み
 エンジニアリング系 自動車業界向け拡大等で前期並みを維持
 コミュニケーションIT 電通向け基幹システム構築がピークアウトしたが、電通協業の拡大により前期並みを維持（電通向け、電通協業ともに期初予想を大幅に上回る）

(4)サービス品目別 連結売上高

(単位：百万円)

	2014年 3月期	前期との比較			期初予想比(2013/5/10発表)		
		前期実績	増減額	増減率	予想値	増減額	増減率
コンサルティングサービス	3,136	3,054	+82	+2.7%	3,294	▲158	▲4.8%
受託システム開発	23,891	24,864	▲973	▲3.9%	23,730	+161	+0.7%
ソフトウェア製品	11,009	8,986	+2,023	+22.5%	12,875	▲1,866	▲14.5%
ソフトウェア商品	22,258	22,330	▲72	▲0.3%	23,884	▲1,626	▲6.8%
アウトソーシング・ 運用保守サービス	6,855	6,529	+326	+5.0%	6,355	+500	+7.9%
情報機器販売・その他	6,818	6,998	▲180	▲2.6%	5,358	+1,460	+27.2%
合計	73,970	72,764	+1,206	+1.7%	75,500	▲1,530	▲2.0%

【ヒックス】 当社グループ独自のソリューションであるソフトウェア製品が前期比大幅伸張

- ・ 地域金融機関向けソリューション「BANK・R」
- ・ リース業向け海外拠点基幹業務ソリューション「LAMP」
- ・ 連結会計ソリューション「STRAVIS」
- ・ SAPデータ連携フレームワーク「BusinessSPECTRE」
- ・ 構想設計ソリューション「iQUAVIS」
- ・ マーケティング・プラットフォーム「iPLAss」

(5)連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2013年4月～ 2014年3月	2012年4月～ 2013年3月	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	5,705	4,761	+944
投資活動による キャッシュ・フロー	▲2,824	▲2,883	+59
財務活動による キャッシュ・フロー	▲1,696	▲1,674	▲22
現金及び現金同等物に 係る換算差額	205	282	▲77
現金及び現金同等物の 増減額 (▲は減少)	1,390	485	+905
現金及び現金同等物の 期首残高	11,459	10,562	+897
連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の 増減額	—	410	▲410
現金及び現金同等物の 期末残高	12,849	11,459	+1,390

＜今期のヒックス＞

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益 (4,672百万円)
減価償却費 (3,385百万円)
法人税等の支払 (▲906百万円)
仕入債務の減少 (▲844百万円)

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

無形固定資産の取得による支出 (▲2,556百万円)

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

リース債務の返済による支出 (▲1,035百万円)
配当金の支払 (▲651百万円)

(6)連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2014年 3月31日	2013年 3月31日	増減	主な増減要因(対前連結会計年度末)
流動資産	40,287	38,145	+2,142	現金及び現金同等物の増加(+1,390)
固定資産	18,590	20,653	▲2,063	投資有価証券の減少(▲2,185)
資産合計	58,877	58,798	+79	
流動負債	17,387	17,214	+173	未払法人税等(+646) 前受金の増加(+576) 支払手形及び買掛金の減少(▲804)
固定負債	2,625	3,679	▲1,054	繰延税金負債の減少(▲864) リース債務の減少(▲208)
負債合計	20,013	20,894	▲881	
純資産合計	38,864	37,903	+960	当期純利益の計上(+2,871) その他の包括利益累計額の減少(▲1,257)
負債純資産合計	58,877	58,798	+79	

(7)受注・受注残

(単位：百万円)

事業セグメント別		受注高		受注残高	
		2014年3月期	前期比	2014年3月期	前期比
合計		35,737	▲7.3%	5,764	▲20.0%
事業セグメント別	金融ソリューション	16,916	+4.5%	3,083	▲11.5%
	インタープライズソリューション	9,645	▲6.7%	1,531	▲11.6%
	コミュニケーションIT	9,175	▲23.7%	1,149	▲42.3%
サービス品目別	受託システム開発	22,220	▲15.8%	3,331	▲33.4%
	ソフトウェア製品アドオン開発	6,073	+24.6%	1,490	+5.9%
	ソフトウェア商品アドオン開発	7,444	+2.3%	942	+17.9%

受注・受注残は、当社のサービス品目のうち、受託システム開発、ソフトウェア製品およびソフトウェア商品のアドオン開発のみが対象です。
コンサルティングサービス、ソフトウェア製品・商品のライセンス、ライセンス保守、アウトソーシング・運用保守サービス、情報機器等は含まれておりません。

(8)2015年3月期 連結業績予想

	通期	(百万円) 前期との比較			上期	(百万円) 前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率		前期実績	増減額	増減率
売上高	76,200	73,970	+2,230	+3.0%	34,700	35,087	▲387	▲1.1%
営業利益	4,500	4,309	+191	+4.4%	820	1,249	▲429	▲34.3%
営業利益率	5.9%	5.8%	+0.1p	-	2.4%	3.6%	▲1.2p	-
経常利益	4,670	4,766	▲96	▲2.0%	870	1,505	▲635	▲42.2%
当期純利益	2,960	2,871	+89	+3.1%	540	931	▲391	▲42.0%

売上高 電通向け基幹システム構築がピークアウトするが、金融ソリューション、インタープライズソリューションの拡大により増収を見込む

営業利益 円安による原価増（5.5億円）や、人件費/研究開発費を中心とした販売費及び一般管理費の増加を増収により吸収し、増益を目論む

2015年3月期 連結業績予想（セグメント別）

	通期	(百万円) 前期との比較			上期	(百万円) 前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率		前期実績	増減額	増減率
金融ソリューション	22,677	22,262	+415	+1.9%	10,090	10,557	▲467	▲4.4%
インタープライズソリューション	35,879	32,995	+2,884	+8.7%	16,354	15,327	+1,027	+6.7%
ビジネス系	14,458	12,736	+1,722	+13.5%	6,444	5,943	+501	+8.4%
エンジニアリング系	21,420	20,259	+1,161	+5.7%	9,910	9,383	+527	+5.6%
コミュニケーションIT	17,643	18,712	▲1,069	▲5.7%	8,254	9,203	▲949	▲10.3%
合計	76,200	73,970	+2,230	+3.0%	34,700	35,087	▲387	▲1.1%

金融 メガバンク向けSI、「BANK・R」、流動性管理システム「Stream-R」拡大

ビジネス系 「POSITIVE」のほか、基幹システム分野のSI拡大

エンジニアリング系 「iQUAVIS」を中心に、革新的なものづくり手法MBD（モデルベース開発）関連のソリューションが自動車業界向け中心に拡大

コミュニケーションIT 基幹システム構築がピークアウトするが、電通協業はさらに拡大

2015年3月期 連結業績予想 (サービス品目別)

iSiD
IT Solution Innovator

(百万円)

(百万円)

	通期	前期との比較			上期	前期との比較		
		前期実績	増減額	増減率		前期実績	増減額	増減率
エンジニア	3,359	3,136	+223	+7.1%	1,472	1,297	+175	+13.5%
受託システム開発	21,893	23,891	▲1,998	▲8.4%	10,106	12,083	▲1,977	▲16.4%
ソフトウェア製品	15,241	11,009	+4,232	+38.4%	6,228	4,750	+1,478	+31.1%
ソフトウェア商品	22,717	22,258	+459	+2.1%	10,599	10,837	▲238	▲2.2%
アウトソーシング・運用保守	7,144	6,855	+289	+4.2%	3,546	3,322	+224	+6.7%
情報機器他	5,843	6,818	▲975	▲14.3%	2,745	2,795	▲50	▲1.8%
合計	76,200	73,970	+2,230	+3.0%	34,700	35,087	▲387	▲1.1%

【ヒックス】 前期好調に推移したソフトウェア製品群(スライド7)に加え、下記製品の拡大を狙う

- ・ 中国金融機関向け信用リスク管理システム「中国版BANK・R」
- ・ 新日銀ネット第二段階対応流動性管理システム「Stream-R」
- ・ 人事管理ソリューション「POSITIVE」
- ・ 街と人をつなぐO2Oプラットフォーム「+fooop! connect」

iSiD
IT Solution Innovator

中期経営計画

ISID Open Innovation 2016

『価値協創』

Progress to the Future

代表取締役社長

釜井 節生

前中期経営計画の総括

- 15 -

1. 総括

「iSiD Open Innovation 2013～価値協創～」

対象期間

2011年4月～2014年3月

基本方針

- ①競争優位分野への集中
- ②電通との協業加速
- ③先端技術活用による新規ビジネスの開発
- ④人材力強化
- ⑤安定収益基盤の拡充
- ⑥コスト構造改革

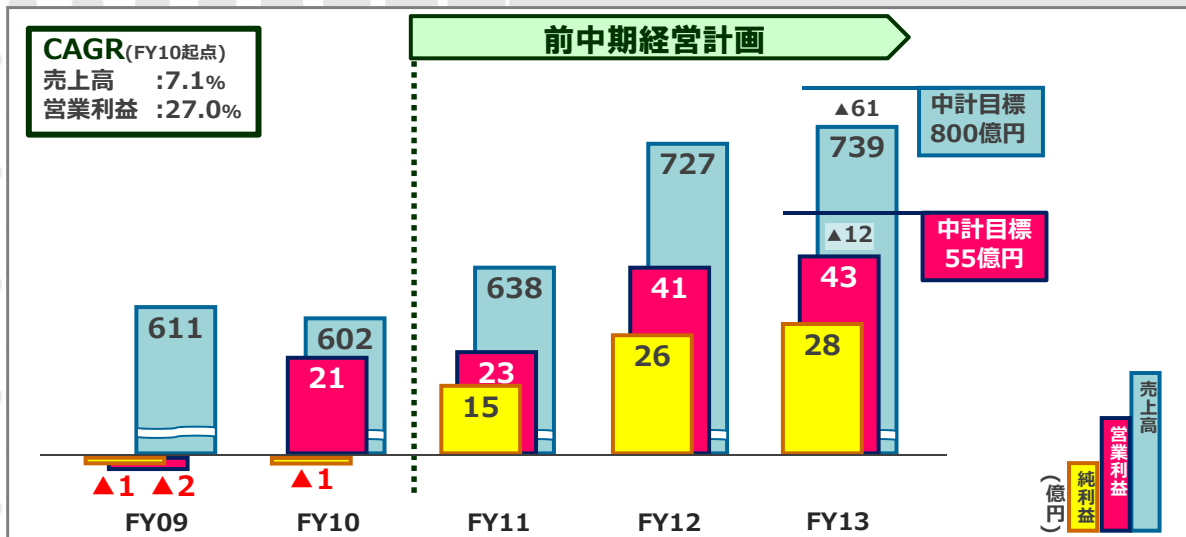
業績目標

2014年3月期

売上高	800億円
営業利益	55億円

- 16 -

- 前中期経営計画を、ISiDグループの「再生期」と位置づけ、リーマンショック後悪化した業績からの回復に取り組み、定量目標には未達であったものの、3期連続で**増収増益**を達成、着実な回復を遂げた。
- 13年度には**過去最高の純利益**を計上した。



- 17 -

主な成果①

①競争優位分野への集中



- 主要顧客、新規顧客ともに堅調に売上を拡大。
- 「BANK・R」「LAMP」等の差別化に向けた製品開発を積極推進。
- MBD製品、会計・HRM製品へ積極投資し売上拡大。
- IFRS強制適用見送り、基幹系システムの戦略的縮小により目標に未達。
- 主要自動車メーカーを中心とした業界横断のコンソーシアムを組成しMBDを支える共通基盤システムの構築を推進。
- 電通基幹大型システム更改や電通協業推進により売上拡大。
- 「iPLAss」「+fooop! Connect」等マーケティング製品開発を実現。

金融セグメント売上高(FY13)

- ・中計目標 : 200-210億円
- ・実績[○] : 222億円

ESセグメント売上高(FY13)

- ・中計目標 : 370-390億円
- ・実績[×] : 329億円

CITセグメント売上高(FY13)

- ・中計目標 : 160-170億円
- ・実績[○] : 187億円

クラウド

- クラウドSIは売上拡大したが、SaaS販売が伸び悩み目標未達。
- 経産省はじめ複数のクラウドセキュリティ基準作りに参画・貢献。

クラウド売上高(FY13)

- ・中計目標 : 70億円
- ・実績[△] : 66億円

グローバル

- 米国・上海・シンガポールで金融業向け売上が拡大
- タイ・インドネシア・台湾・深セン・サンフランシスコに拠点設立
(7カ国・地域、12拠点)

グローバル売上高(FY13)

- ・中計目標 : 80億円
- ・実績[○] : 91億円

- 18 -

主な成果②

②電通との協業加速

- 電通クライアント向けソリューションで協業拡大。
(公共、CRM分野等)
- マーケティングプラットフォームとして「iPLAss」を開発。

電通協業売上高(FY13)

- ・中計目標 :50億円
- ・実績[○] :52億円
- ・参考(FY10) :21億円
(FY09) : 9億円

③先端技術活用による新規ビジネスの開発

- グランフロント大阪にてソーシャルシティ・プラットフォーム「+fooop!」を導入。
街ビジネスを立ち上げ。
- 位置情報・AR等の分野で数多く実証実験を実施し、新ビジネスを創出。

④人材力強化

- 人財育成体系を刷新し、教育プログラムを大幅拡充。
(「人財育成ガイドライン」策定、共通キャリア・スキルフレームワーク導入、
グローバルトレーニー制度、留職プログラム、インドIT研修等)

⑤安定収益基盤の拡充

- ストック売上高は拡大したが、売上構成比目標は未達。

ストック売上構成比(FY13)

- ・中計目標 :15.0%
- ・実績[△] :11.0%
- ・参考(FY10) :8.6%

⑥コスト構造改革

- 販管費率は目標未達であったが、大幅に低減。

販管費率(FY13)

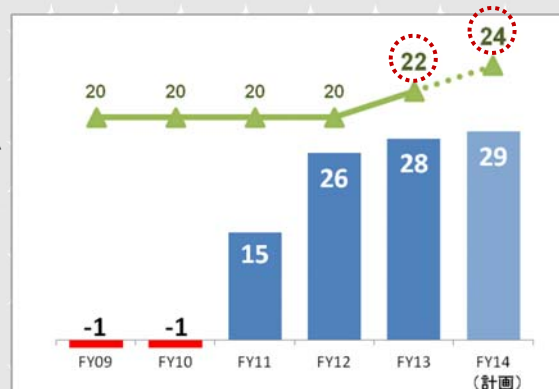
- ・中計目標 :23%
- ・実績[△] :24.7%
- ・参考(FY10) :29.1%

- 19 -

2. 株主還元について

前中期経営計画の取組みの結果、
連結業績は **3期連続増収増益** となり、
連結当期 **純利益は過去最高を更新** するなど
着実な業績回復が図られたことから、
2円増配し 1株当たり12円に。

- 13年度期末配当 (予定) 10円→**12円**



▲ 1株当たり年間配当金額(円)
■ 当期純利益(億円)

配当金額

13年度	中間配当 10 円	期末配当 12 円(予定)	➡ 年間合計 22 円(予定)
14年度	中間配当 12 円(予定)	期末配当 12 円(予定)	➡ 年間合計 24 円(予定)

- 20 -

新中期経営計画

- 21 -

1. 外部環境認識

社会環境

- 人口減少・少子高齢化対策、低炭素社会の実現、安心安全な街づくり、ITS(高度道路交通システム)等、日本が直面している課題の解決にITは不可欠な存在に。
- 「世界最先端IT国家創造宣言」の下、より一層のIT利活用社会実現へ。

経済環境

- アベノミクス効果や東京五輪開催決定等による景況感の改善。
- 長く続いた円高の是正による、製造業を中心とした顧客企業の業績回復。
- 政府の「成長戦略」は実現に向け正念場。

顧客企業環境

- 顧客企業は、自社の競争力を高める分野へのIT投資を強化。(グローバル・製品開発・マーケティング等)
- アジアを中心とする新興国シフトは、日本企業の成長にとって不可欠な戦略に。

技術環境

- クラウド環境のさらなる拡大・浸透。(国民生活や経済活動を支える情報基盤に)
- センサーやモバイルデバイスの急速な発達・進化。
- 全てのモノがネットに繋がるIoTが現実化し、ビッグデータの蓄積・分析・利用が可能になったことで、製品と顧客の関係・ものづくり・ビジネスモデルが大きく変革。

- 22 -

2. 本中期経営計画の位置づけ

ISiD Open Innovation『価値協創』は、引き続き取り組むべき行動指針として、本中期経営計画でも継続。

1

着実な再生・回復を遂げた前中計期間を経て、創業40周年を迎える本中計期間をさらなる**発展段階**と位置付ける。

2

前中計で経営資源を集中し事業化に着手したソリューションを本中計の成長ドライバーとして、**競争優位性を追求**する。

3

ISiDグループの強みである技術力を活かし、未来の成長に向けた**新たなビジネス領域開拓**に果敢に挑戦する。

- 23 -

3. 定量目標

	2013年度	2016年度	CAGR (年平均成長率)
連結売上高	739億円	850億円	4.8%
連結営業利益	43億円	60億円	11.7%
営業利益率	5.8%	7.1%	

- 24 -

4. 基本方針

競争優位性の追求

～強みをさらに伸ばす～

競争優位分野へISiDグループの経営リソースを集中し、さらなる差別化を図る

新たなビジネス領域の開拓

～さらなる未来を見据えて～

今後の飛躍に向けて、未開拓のビジネス領域に積極果敢に挑戦する

- グローバル市場の開拓
- 先端技術の活用
- ビッグデータ活用による新ビジネス創出

人材力の強化

～価値創出の主役は人材～

価値協創の源泉である人材への積極的な投資を行い「人間魅力」を高める

- 25 -

4-1. 金融ソリューションセグメント

競争優位性の追求

- 大手金融機関のグローバル展開や規制強化対応支援を拡大
- 決済システム更改や市場慣行整備に的確に対応
- 地域金融機関の業務改革の実現を積極的に支援

新ビジネス領域の開拓

- ビッグデータやクラウドを活用した新しい金融サービスを創出
- 金融ベンチャー等との連携から新規ビジネスを創出

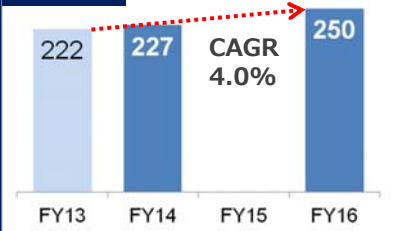
トピックス

グローバル市場開拓を本格化。
中国・ASEANの非日系マーケットに対し、
「中国版BANK・R」「LAMP」を展開。

BANK R

Lamp
LAMP is a financial management platform

売上高



【億円】

- 26 -

4-2. エンタープライズソリューションセグメント

競争優位性の追求

【エンジニアリング系】

- 自動車業界におけるMBDソリューション領域のNO.1プロバイダになる
- ものづくり革新支援のグローバル展開（日本含むアジア地域）

【ビジネス系】

- グローバル・タレントマネジメント・ソリューション強化
- 会計、原価・生産管理系ソリューション強化

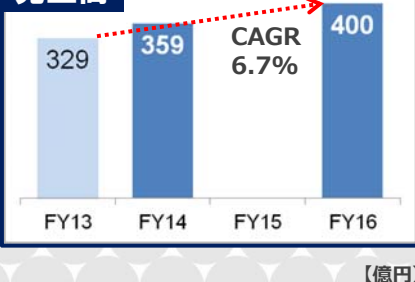
新ビジネス領域の開拓

- 製造業の設備保全、故障予測領域等ビッグデータによる新ビジネス創出
- 国際物流分野のソリューションのグローバル展開
- ライフサイエンス分野における新たなビジネスの創出

トピックス

ISiDが運営するALL JAPAN PT（パワートレーン）コンソーシアムを基軸に、日本の自動車産業におけるMBDプラットフォームの構築を支援する。また、自動車産業／大学／官庁とも積極的な連携を行う事で、グローバル競争に勝つためのMBDの普及、展開を加速する。

売上高



4-3. コミュニケーションITセグメント

競争優位性の追求

- 電通協業のさらなる加速（「公共」「CRM」「街ビジネス」等の領域で協業を加速）
- 電通グループの基幹システムのさらなる高度化を支援

新ビジネス領域の開拓

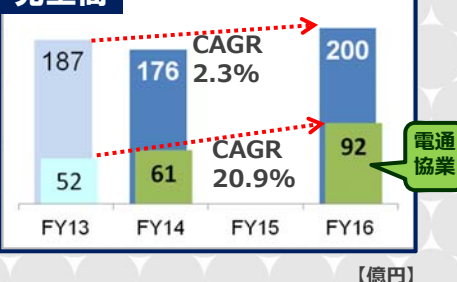
- マーケティング系ビッグデータを活用し、電通と協業で新ビジネス領域を開拓
- オムニチャネル、アドテクノロジー分野での事業創出
- 映像ソリューションを活用したスポーツ関連ビジネスの開拓
- 電通協業モデルの海外ロールアウト推進

トピックス

マーケティング関連製品「iPLAss」「+fooop! connect」「potaVee」を中心に、電通協業ビジネス拡大とソリューション高度化を推進。



売上高



4-4. グローバル市場の開拓

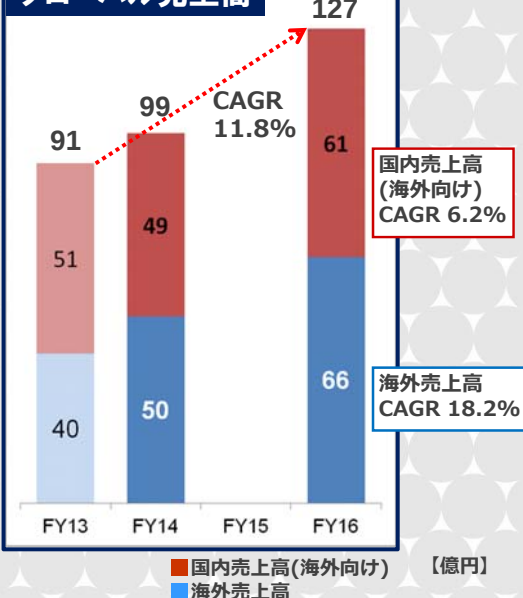
全体方針

中国・ASEAN地域を中心に、日系顧客に加えて、非日系顧客市場にもビジネスを拡大。

アクションプラン

- 『グローバルビジネス開発本部』新設
主に非日系顧客を対象にグローバル事業の開発を推進する
- リージョナル体制強化
上海・シンガポールに「中国統括」「ASEAN統括」を設置
- 非日系マーケット開拓
ローカルマーケットへ、「中国版BANK・R」「LAMP」「+fooop! connect」等を展開
- 積極的な提携・M&A
ローカルマーケット開拓や商材の新規開発のための積極的な提携・M&Aの実行

グローバル売上高



4-5. 先端技術の活用 ～オープンイノベーション研究所～



全体方針

プロトタイピングと実証実験により、先端技術・サービスを組み合わせた新規ビジネスの創出を継続的に推進。

アクションプラン

●街ビジネスのさらなる推進

エリアマネージメントなどのコンセプトレベルからの街づくり参画



●「スポーツ×IT」の取り組み

スポーツに特化した実証実験の場づくりを行い、センシングデータを活用した新たな体験価値の研究を推進

●教育コンテンツプラットフォームの実証実験

タブレット等電子デバイスの導入が進む教育現場にて、アダプティブラーニング(適応学習)を推進



●グローバル・オープンイノベーションの実現

サンフランシスコ研究開発拠点の強化、アジアへの進出等

4-6. ビッグデータ活用による新ビジネス創出

全体方針

あらゆるモノがネットで繋がり集積されるビッグデータを活用し、顧客のビジネス革新を支援。

アクションプラン

●マーケティング革新

生活者・メディア・ソーシャル・流通チャネル等の広域・複雑なマーケティングデータを統合・解析し、電通と協業しマーケティング革新をリード。



●ものづくり革新

製品開発～製造～アフターマーケット(販売後)にいたる各段階で発生するビッグデータを解析。

- ・ 実験データ解析による製品開発高度化
- ・ 故障予測による予知保全実現や新サービス創出支援



●金融サービス革新

顧客情報・取引情報・市況情報等を活用した付加価値サービス創出に取り組み、リテール分野を中心とした金融サービス革新を支援。

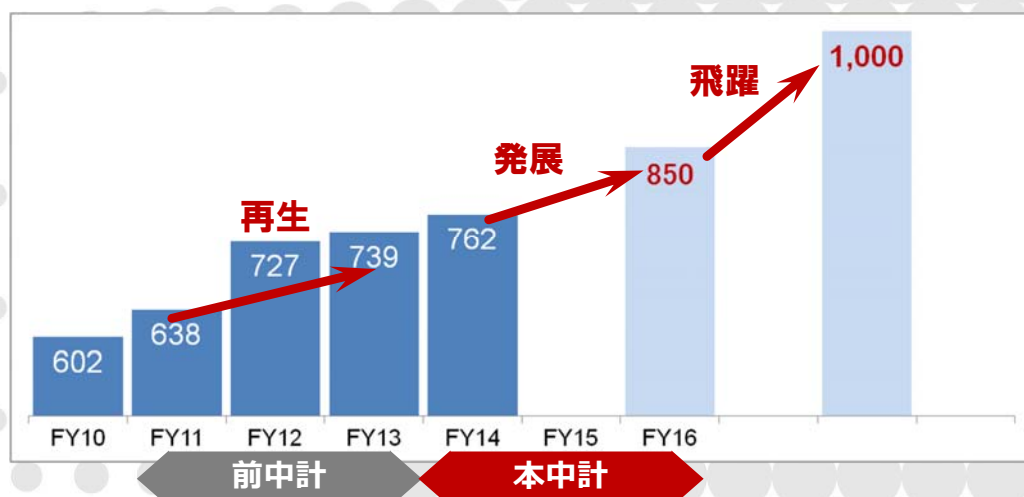


●オール電通グループの取り組み

オール電通グループとして、顧客企業のバリューチェーン全体(R&D・製造・保全・マーケティング・ファイナンス等)を網羅した、新たな価値(サービス・ソリューション等)を創出。

5. Beyond 2016

ISIDグループは、お客様や社会の発展に寄与する企業として、
今後もさらなる差別化を追求し、本中計以降、
早期に**売上高1,000億円突破**を目指す。



6. 本中期経営計画達成へ向けて

中期経営計画

ISiD Open Innovation 2016

『価値協創』

Progress to the Future

ISiDグループは、本中期経営計画を、
将来を見据えた『価値協創』のさらなる発展段階と位置づけ、
新たなソリューションの開発に挑戦し、
お客様や社会とともに未来を切り拓く。

- 33 -

用語について

P18,26,29	BANK・R (開発元：ISiD)	融資業務と営業管理を統合的にサポートする、地域金融機関向けソリューション。
P18,26,29	LAMP (開発元：ISiD上海)	リース会社の海外拠点向け基幹業務システム。
P18,27	MBD	Model Based Developmentの略。「モデルベース開発」。 実機試作を極力行わず、実験からの統計データや物理現象を記述する数式などの「モデル」を用いたバーチャル試作により、製品開発を行う手法。
P18,19,28	iPLAss (開発元：ISiD)	販売業務、顧客管理等ビジネスの早期立ち上げを実現するためのマーケティング・プラットフォームサービス。
P18,28,29	+fooop! connect (開発元：ISiD)	「+fooop!」をベースに、街と人をつなぐO2Oマーケティングに必要な機能をコンパクトにパッケージ化したサービス。
P19,30	+fooop! (開発元：ISiD)	ISiDが研究開発および事業化を進める、街のITプラットフォーム。
P19	AR	Augmented Realityの略。「拡張現実」。
P19	共通キャリア・スキルフレームワーク	IPA(独立行政法人情報処理推進機構)が策定したもので、今後必要とされる高度IT人材の人材像とその保有すべき能力や果たすべき役割(貢献)の観点から整理した、共通の育成・評価のための枠組み。
P22	IoT	Internet of Thingsの略。「モノのインターネット」。 スマートフォンをはじめとした情報通信機器や、通信機能を持つ身の回りのモノがインターネットに接続され通信することにより、相互に計測・制御等を行う概念。新たに生成される大量データを分析することにより、これまで困難だった課題に対するソリューションや新しいサービスの開発につながると期待されている。
P27	ALL JAPAN PT コンソーシアム	グローバルでの競争力を維持・向上させる為に、国内主要自動車メーカー6社のパワートレーン開発部門のメンバーを中心とした組織。特に製品開発における非競争領域での協業を目的とした活動。
P28	potaVee (開発元：ISiD)	Wi-Fiを利用して、スマートフォンやタブレット端末に映像・音声・テキストなどを同時配信する、エリア限定型の配信プラットフォームサービス。
P30	アダプティブラーニング	個々の生徒の学習進捗にに合わせて、適切な教材を最適なタイミングで提供する教育手法。
P31	nCode (開発元：nCode社)	試験・測定・運用監視・製品設計(耐久性予測および疲労解析)に特化した、耐久性、試験および解析のための製品開発高度化ソリューション。
P31	Predictronics	予知保全分野において、「Intelligent Maintenance(知的保全)」のコンセプトのもと、高度なデータ解析技術を駆使した先進サービスを提供する米国のベンチャー企業。
P31	ライブエンゲージ (提供元：LivePerson社)	ウェブサイト来訪者が目的をスムーズに達成できるよう、ネット上の「おもてなし」を演出するSaaS型のクラウドサービス。ウェブサイト上のユーザーの行動をモニターし、「ページ間を何度も往來する」「同じページにずっと留まっている」といった傾向を捉えると、チャットを用いてオペレータと対話するための招待画面の提供や、パーソナライズされたコンテンツの表示を行う。
P31	Bonanza (提供元：ISiDフェアネス)	個人の資産運用を支援するシステムの開発及び提供を行うためのデータ、ツール群を備えた「金融情報プラットフォーム」。金融商品のパフォーマンス・データベース、データを可視化するツール群、金融計算を実行するエンジン群などを利用することで、システム開発期間の短縮や安定したシステム運営を実現する。

- 34 -

金融ソリューションセグメント

- 11/21 JF(漁業協同組合)グループの自己査定支援システムをクラウドで刷新
- 12/4 ウェブ接客サービス「ライブエンゲージ」の金融機関向け提供を開始
- 12/11 「金融イノベーションビジネスカンファレンスFIBC2014」の開催を決定
- 12/13 横浜信用金庫の融資業務システムを刷新
- 2/3 「金融イノベーションビジネスカンファレンス FIBC2014」登壇者を決定
- 3/4 「金融イノベーションビジネスカンファレンスFIBC2014」の受賞サービスを発表

エンタープライズソリューションセグメント

- 12/10 西鉄グループの次期BIシステムを受注
- 12/25 NECと統合人事パッケージ「POSITIVE」の販売で提携
- 1/31 ビッグデータ解析による知的保全ソリューションで米ベンチャーと資本提携
- 2/18 ANAに連結会計クラウド「STRAVIS on CLOUDiS」を提供

コミュニケーションITセグメント

- 11/13 スマートフォン向けエリア限定型配信プラットフォーム「potaVee」を販売開始
- 11/19 街と人をつなぐO2Oプラットフォーム・パッケージ「+fooop! connect」を提供開始
- 12/19 O2Oプラットフォーム「+fooop! connect」を東芝が採用
- 2/20 「Mobile World Congress 2014」にエリア限定型配信プラットフォーム「potaVee」を出展
- 2/25 新国立劇場のオペラ公演でエリア限定型配信プラットフォーム「potaVee」を用いた実証実験を実施

クラウド・オープンイノベーション研究所・他

- 11/8 フランス・バルドワーズ県と共同でライブログ解析の実証実験を開始
- 1/31 米バルboaパーク内の日本庭園を巡る公式ガイドアプリに高精度測位インフラ「Place Sticker」を提供
- 3/18 歩者の移動履歴から「つながり」を類推するアルゴリズムを開発
- 3/20 リーガル世代の行動特性を分析するライブログ解析実験を開始
- 4/15 東京国立博物館の公式ガイドアプリ『トールクナビ』にBluetooth Low Energy(BLE)を含む3つの屋内測位技術を実装
- 4/24 サウカンパニーとインテリアの3Dシミュレーション体験ができるバーチャルショールームを公開